

平成27年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立東大和高等学校学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 教務主任、教務部員2名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主幹、生活指導主幹、進路指導主任、図書総務主幹 計7名
- (4) 協議委員の構成
大学教授 中学校長、東大和署生活安全課少年係長、地域の代表、同窓会長、PTA会長
計7名

2 平成27年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 第1回学校運営連絡協議会 平成27年6月15日(月) 15:40~17:00
会場：本校校長室 内部委員7 協議委員5名、
内容：協議委員委嘱、本校の現状と課題の説明、学校評価についての説明
本校を取り巻く現状についての意見交換
 - 第2回学校運営連絡協議会 平成27年11月26日(木) 15:40~17:00
会場：本校校長室 内部委員6名 協議委員4名、
内容：本校の教育活動についての中間報告、意見交換
学校評価アンケート案(評価委員会案)の検討
 - 第3回学校運営連絡協議会 平成28年1月18日(月) 15:40~17:00
会場：本校校長室 内部委員7名 協議委員6名、
内容：教育活動まとめの報告、学校評価アンケート集計結果の報告
意見交換、学校運営に関する提言、協議委員の学校評価の実施
 - (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
- 第1回 平成27年11月26日(木) 15:30~15:40
本校校長室 協議委員2名、内部委員2名
内容：学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 平成28年1月18日(月) 15:30~15:40
本校校長室 協議委員2名、内部委員2名
内容：アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点
学校の理解・学校の意欲・学校の実践の3つの観点に基づいて実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・ 12月 全校生徒 878名 (回答率 97%)
 - ・ 12月 保護者 878名 (回答率 77%)
 - ・ 12月 地域・住民 80名 (回答率 50%)
 - ・ 12月 教育職員 52名 (回答率 96%)
- (3) 主な評価項目
学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動、施設設備、その他
- (4) 評価結果の概要
 - ・ 回収率について、地域の方の回収率を5ポイント昨年度を上回ることができた。
 - ・ 保護者の回答率が高いことから、保護者と学校との関係が良好であることが分かった。
 - ・ 保護者の回答項目に「よくわからない」を加えたことで、保護者に情報が周知できていない項目が明確になった。

- ・ 学校に対する満足度では、生徒、保護者、教員ともに9割を超す肯定評価を得た。
- ・ 学校に対して満足している理由は、雰囲気が良い、行事が充実している、部活動が充実している、を選ぶ人が多かった。
- ・ 分かりやすい授業については、生徒の肯定評価が昨年に引き続いて7ポイント程度下がっている。生徒の意識が変化し、授業に求めるものが高くなったと推測される。
- ・ 家庭学習時間2時間以上、1～2時間の生徒が微増し、30分以内は微減した。
- ・ 部活動・行事・進路指導・生活指導について、生徒の9割が肯定的な評価をした。
- ・ 体罰撲滅の取り組み、いじめ根絶の取り組みについて、教員の意識は高まったが、生徒の意識は高まらなかった。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・ 事前に会議資料を送付し会議では資料説明の時間を省き協議の時間を増やしたことで、協議委員の方からのご意見を多く聴くことができた。
- ・ 学校評価の結果に関する協議から、生徒や保護者の授業に対する考え方の変化や、学校と保護者との関係などに関する協議委員の声を聴くことができた。
- ・ 防災活動支援隊が地域の総合防災訓練に参加したことなどにより、地域の方の本校に対する関心が高まったことが学校評価の結果から分かった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・ 保護者の方に周知しづらい教育活動について、さらに周知するための方策が必要である。
- ・ 地域への情報発信と地域と連携した活動の更なる充実が求められている。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- (1) 学校運営：保護者や地域と連携した活動を充実させ、そして本校の教育活動を積極的に公開し保護者や地域の方からの信頼と期待に応える学校経営を一層推進する。
- (2) 学習活動：分かりやすい授業については、生徒の肯定評価が昨年に比較して8ポイント程度下がっているが、生徒の意識が変化し、授業に求めるものが高くなったと推測される。今後は更なる授業内容の工夫改善、教員の授業力の向上を図り、生徒のニーズに応える授業を展開する。
- (3) 特別活動：「協調性・社会性」や「忍耐力・根気」を養うためにも、本校の特色である行事や部活動を一層充実させる。
- (4) 生活指導：社会性・規範意識を育成し、自転車通学のマナーと身だしなみについて主体的に守る姿勢と態度を身につけさせる。
- (5) 進路指導：今後もキャリア教育を推進し、生徒が自ら個性や適性に応じた進路を選択できる力を育てていくとともに、希望の進路を実現させる。キャリアガイダンスの取り組みについて、HPやクラス通信などを通じて保護者に周知し連携を強化する。
- (6) 地域連携：行事や部活動などの情報を積極的に提供し、学校に来ていただく機会を提供する。「奉仕」体験活動等、様々な交流活動・貢献活動を今後も推進する。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員 7人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
4	2	1	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成績

【実績】 職員会議 0回 0人 企画調整会議 0回0人